

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

むごい教育

徳川家康の逸話です。幼少期（幼名・竹千代）に今川家の人質となっていた家康に、今川家当主の今川義元は家臣に「『むごい教育』をせよ」と指示しました。その指示を受けた家臣は家康に質素な食事を与え、武術の訓練を厳しく行いました。

そのことを聞いた義元は、「それは『むごい教育』ではない」と家臣を叱ったそうです。そして、「むごい教育」とは、ぜいたくな食事をさせ、竹千代の言うことはすべて聞き入れ、欲しいものはすべて与え、ちやほや育てることであると、家臣に教えたそうです。

つまり、義元の狙いは、武将として見込みのある竹千代（家康）が大成すると、将来今川家の脅威となることを恐れ、幼少期からその芽を摘み取ることにあったと言われています。

あくまで、逸話ですので、その真偽はわかりませんが、子どもたちが困難に出会った時、自力で乗り越える経験もせず、他と協力して困難を解決する手立ても学ばず、わがまま三昧、自己主張ばかり覚えて成長したとしたら、それは子どものためなのかと考えさせられる話です。

ちなみに、竹千代は「むごい教育」の影響を受けることなく、様々な困難を乗り越え、徳川家康として江戸幕府260年の礎を築いたことは歴史に刻まれている通りです。

歳の瀬

12月に入りました。今日も含め2学期の登校日数は16日となりました。これから年末を迎え、何かと気ぜわしくなり、思わぬ事故が起きやすくなるかと思えます。

昨年（令和5年）の長崎県の交通事故統計では、1月が237件、12月が247件でした。この1月と12月の件数は年間の交通事故件数の約18%にあたります。やはり年末年始には交通事故が多くなっていることが読み取れます。

子どもたちには日頃から交通安全指導を行っているところではありますが、年末の慌ただしさからかスピードや周囲への注意が疎かになっているドライバーもいるかもしれません。また、本校の校区は比較的交通量が多い、住宅地への車の出入りが多い等の環境でもあります。日頃に加え、より交通安全への意識を高くしておく時期なのだと思います。

一方で、ハンドルを握る機会の多い私たち大人も日暮れが早くなり、子どもに限らず歩行者を視認しづらい季節でもあります。より慎重な運転を心がけ、年末年始を迎えていきましょう。

年末の交通安全県民運動は12月15日（日）～12月24日（火）です。

また、12月17日（火）の登校時には長崎刑務所の所員さんによる見守り活動も行われます。

